

# 練馬・文化の会 会だより

共同代表：相川充弘 岡部昭 小沼綾子 田場洋和  
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

## 第2回「戦争」語り部セミナー：3月22日後2時～石神井庁舎(チラシ参照) 日本兵自身が語る日本軍のむごたらしさを改めて知ろう！許せない安倍政権による「戦争できる国づくり」への道

亡くなられた歴史家の阪東宏・明大教授が、歴史は文書によるものと人間の記録・証言によって成り立つ——と文化の会の講演で語っていたのを思い出します。そんな指摘をもとに組まれたのが「戦争」語り部セミナーです。

戦争の実態を語れる人も、戦後70年にもなると、本当に限られます。現に3月22日の第2回セミナーで上映されるビデオに登場する人は皆物故されています。その証言として語っている内容は「聞くのがつらい」というものばかり。いま進められている「戦争のできる

国づくり」は、こうしたむごたらしい戦争の実態をどのくらい知って進められているのでしょうか……。

戦争の経験者が自らの体験を語るまでになるのには、大変な葛藤と勇気が必要になります。それは従軍慰安婦の場合にも共通します。「中帰連」に長年かかわってきた荒川さんの思いを聞くのも、「戦争」を自らの体験とするために大変貴重なものになると思います。

「戦争ができる国づくり」への怒りを共有したいと思います。そしてその怒りを若者たちとも共有できれば。(田場記)

## 2月8日の第1回語り部セミナーに20余名が参加。地味な調査活動が支えた戦争の記録—歴史の検証作業

2月8日、ココネリで行われた第1回語り部セミナーには20余名が参加し、武蔵野で空爆の対象になった中島飛行場への攻撃の実相が秋山、西田の両講師から克明に語られました。米軍の資料まで探し出し、長崎へ

の原爆投下の実験として西武線の柳澤駅周辺にパンプキン爆弾が投下され、女性2人が殺された話などは「戦争はまず子ども、女性を犠牲にする」実態を雄弁に物語っていました。(田場記)

## 第3回セミナーは空襲・疎開など「銃後の守り」体験を聞く会に

第3回「戦争」語り部セミナーは、会員の方を中心に、空襲・疎開などの体験の語りを中心に4、5月に

実施する計画です。お話いただける方は、事務局までご連絡ください。

## 有原監督の「うしろの正面だあれ」の上映会、4月29日ココネリで。前売りチケットは事務局までご連絡をください！

有原誠治監督の「うしろの正面だあれ」の上映会が4月29日(祝・水)にココネリホールで行われます。同映画は有原監督が40歳代の1991年に、海老名香葉子さんの原作をもとに制作されたものです。3月20日の光が丘試写会のチラシ裏にあるように新聞大手各紙の「天声人語」欄などで揃って紹介・激賞された作品です。「戦争ができる国づくり」が進む中ではタイミングの良い上映企画かと思えます。ネットのユーチュー

ブではアラビア語版が30万回を超えるクリック数で視聴されており、「はだしのゲン」同様、世界的なヒット作品になりつつあります。

電話で確認できた人には5枚1セットのチケットを同封いたします。1枚のチケットで、大人、子供、大人・子どもセットの3種で販売できるようになっておりますので、売れた際にはチケットに明記してください。(田場記)

## ギャラリー古藤の田島さんの紹介記事が東京新聞の全面に

1月にギャラリー古藤で行われた「表現の不自由展」は、約15日間で2,500名の参加を得て大成功。続いて1月末から第4回の「江古田映画祭」が「福島を忘れな

い」をコンセプトにスタート。こうしたギャラリー古藤の田島さんの「思い」が東京新聞全面で紹介(同封)されました。

## 放送を語る会の「初井NHK会長NO！～NHKを国策放送局にするな～」の3月9日の院内集會に文化の会が賛同

「放送を語る会」の小滝事務局長からJCJとの共催で3月9日（月）に参議院議員会館・会議室1で「榊井NHK会長の！～NHKを国策放送局にするな～」の賛同団体の呼びかけがあり、文化の会として名を連

ね、メッセージ（同封）を送付しました。このところのNHKニュースはあまりにも安倍政権寄り、NHKだけをみているは「海外で戦争する国づくり」の実態がみえません。

### 辺野古新基地建設で安倍首相に抗議ハガキを！翁長知事に応援ハガキを！

昨年の沖縄知事選、総選挙で、沖縄県民は、辺野古の新基地建設に対してノーの答えを突きつけました。しかし、安倍内閣は民主主義の基本である、地元の民意に全く聞く耳を持たず、無視を決め込んで、辺野古新基地の建設を着々とすすめております。先日は、米軍基地前で不法な逮捕を行い、県民への弾圧を進めております。

私たちが出来ることは、辺野古新基地前の抗議行動に参加すること、新基地反対集会に参加することなどがありますが、このほど、練馬革新懇が、「安倍首相への抗議。翁長知事への激励ハガキ」に取り組んでおります。そこで練馬・文化の会でもこのハガキを出して連帯の行動を表したいと思っております。同封したハガキを是非活用してください。（森田記）

### 練馬・文化の会共同代表の古賀義弘さんが急逝

古賀義弘さんが、今年の1月11日、急逝されました。ガンを患っていると心配していましたが、こんなに急に亡くなるとは、思いもよりませんでした。福岡県の片田舎から上京、日本大学で日大闘争に巻き込まれ、留年を余儀なくされましたが、母校日本大学の教授になり、その後、嘉悦大学の学長、立教大学のセカンドステージの教授をされました。

どの時代の友人に聞いても、古賀さんは、造船業を中心とした日本、アジアの研究で素晴らしい実績を持ちながら、学内での理論究明だけでなく、積極的に外に出て、社会的活動を旺盛に行った、稀有な学者であったと言われます。

私たち練馬・文化の会では、小冊子「みつがしわ」の創刊号(1984年)から編集委員を務められ、1986年からは、長い間、事務局長の大役をこなされました。練馬・文化の会にとって、当初から無くてはならない人でした。こうした理論と実践をこなす人は、区内でも余り見受けられず、4年前には、「新しい練馬をつくる会」推薦で練馬区長選に立候補されました。私が、その時の選挙事務長をしたのですが、約4ヶ月、毎日毎日無理を重ねさせて、それが元で、身体を壊してしまっただけではないか。と考えると返す返すも申し訳なかったと胸がいっぱいあります。高潔な人柄とやさしさで人を魅了させ、いままでにない得票を取ったことを忘れはしません。二人とも勝つもりでいましたので、その結果に悔し涙を流したものでした。その後も、大学だけでなく、「練馬・文化の会」の戦後経済の連

続講座を積極的に開いてくださり、会員外の人にもわかりやすく、ユーモアたっぷりの講義に、皆さんじっくり聴講されていました。

病気が悪いと自覚してからも、軍需産業の分析に力を入れ、持ち場の造船業が、いかに、中国ほか海外に進出していったのか、それもその技術力で、軍需への道をどんどん開いて、進んでいくのかを緻密に分析して、著作に表しました。安倍政権が、「戦争をする国」づくりをすすめていく中で、ますます軍需産業の分析とその行動が必要な時に、古賀先生を失ったことは、誠に残念でなりません。

家庭では、子どもにはいう事は最大限かなえてあげる子煩悩の親で、家の中では、自分の図書・資料以外どこに置いてあるのかもわからない人だったようですが、買い物には、いつも奥さんと二人で行くといった愛妻家でした。その奥さんによると「よくよく人との絆を大切に、ひとの繋がりである社会にその視点を置き、仕事を進め、自分の仕事である「教育・研究」を通して何を社会に発信出来るのか。何をなすべきか…を考えていた人」とのことです。全く惜しい人を失ったものだと思います。

次の要領で、「古賀義弘先生の偲ぶ会」を開きます。是非ともご参加下さい。

連絡は森田彦一まで (3951-4276)

「古賀義弘先生を偲ぶ会」3月24日 6時開場

場所：練馬駅前ココネリ3階ホール

参加費：5,000円

(森田記)

### 2014年度までの年会費の納入をお願いします！未納の方には振込用紙同封

2014年度の年会費未納の方には、振込用紙同封いたしました。2014年度までは年会費3千円（80歳未満）です。15年度からは会費値下げの方向ですので、14年

度まで未納の方のみに督促しました。

会費のお問い合わせは、会計担当の嚮田さん迄。自宅TEL (3948) 5129 携帯090-9809-8591